



群私幼

No.
1
7
2

2015年(平成27年)10月1日発行
 (一社)群馬県私立幼稚園・認定こども園協会

発行人 原 徳明
 編集人 高月 広喜

群私幼事務局/☎371-0854 前橋市大渡町1-10-7
 群馬県公社総合ビル6F 私学センター内
 TEL.027-280-6206
 FAX.027-280-6208
 URL・http://www.gunshiyou.jp/



「わ～い、落ち葉のじゅうたん楽しいな！」

CONTENTS

- ② 夏の研修特集
 - * 新採研 (中期Ⅰ) (7/21・22)
 - * 初級講座 (7/23・24)
- ③ * 新採研 (中期Ⅱ) (7/28～30)
- ④ * 中級講座 (8/10・11)
- * 上級講座 (8/17・18)
- * 全日私幼連関東地区教員研修茨城大会 (8/4・5)
- * 第6回幼児教育実践学会 (8/18・19)
- * 就職説明会 (7/12)
- ⑤ 幼稚園訪問記
 - * 富士見幼稚園
 - リフレッシュ ～私の夏休み～
 - * 櫻丘幼稚園
 - * 清心幼稚園
- ⑥ 連載「フロムぐんまちゃん」
 - ほほえみインタビュー
 - * 三山幼稚園
- ⑦ 幼児教育センターの保育相談Q & A
 公開保育・研究発表に向けて
 - * 元総社幼稚園
 研修だより
 - * 新採研 (前期Ⅲ) (6/1)
 - * 主任研修会 (6/10)
 - * 教育課程研究協議会 (6/18)
 - * 類型別連絡協議会 (7/15)
 - * 幼稚園バス乗務員安全運転講習会 (7/22)
- ⑧ 編集後記

ニューリーダーの会 勉強会

6月27日に伊勢崎市のこひつじ幼稚園にてニューリーダーの会主催の勉強会が行われました。
 今回のテーマは「どうなった？新制度について」です。実際に新制度がスタートして数ヶ月が経ちました。すでに移行した園の代表者からは、実際にやってみてここが良くなった、こんなことが困った、など経験して感じたメリットデメリットをお話ししていただきました。私学助成のままでいる事を選んだ園の代表者からもたくさんの質問を出していただき、非常に活発な議論が行われました。
 深い所まで意見を言い合えるニューリーダーの会ならではの有意義な勉強会になったと思います。

(編集委員/茂木)



15 夏の研修会特集 参加者レポートより



実り多い夏の研修会 上級講座開会式の様子

新規採用教員研修 中期 I

とき 7月21日～22日
ところ 県公社総合ビル

(認)松原幼稚園 今泉 里菜

今回の新規採用研修中期 I では、講義と講習「エンカウンター」、パネルディスカッション「保護者からの視点」～こんな先生がいいなく、講義と実習「児童文化財のいろいろ」、実習課題研究「パネルシアター制作・発表」6～7人グループ、座談「チーム保育における教師としての共通理解」について学ばせて頂きました。

「エンカウンター」では、様々なエクササイズを行うにつれて、リラックスス

た雰囲気が出来ました。「保護者からの視点」では、普段の生活ではなかなか聞くことが出来な保護者の方からの話を聞くことが出来ました。「児童文化財のいろいろ」では、ペープサートがとても印象に残っています。声や音、紙人形の動かし方が一体となっていて、ペープサートならではの特徴が多く見られました。また、パネルシアターでは、各グループに分かれてオリジナルのストーリーを制作し発表を行いました。「チーム保育における教師としての共通理解」では、どんなことを共通理解しておくか良いことやチームワークが良いとはどのようなことかなどについて学ぶことが出来ました。今回の研修で学んだことをこれからの保育に生かして、保育の技術を向上させていきたいと思います。



児童文化財のいろいろでのひとこま

初級講座

とき 7月23日～24日
ところ ホテル天坊(伊香保)

こひつじ幼稚園 大塚 美樹



オリジナルのパネルシアターをグループごとに発表

1日目はそれぞれ選んだ分科会に分かれて活動しました。私は「元気が出る！運動遊び」に参加させて頂き、実際に体を動かして感じるということのみならず

分科会ごとに学びの成果を発表

触れあい楽しく活動しながらも、現場の中で役立つ様々な遊びを覚えて頂きました。2日目は講演会があり、沢山の貴重なお話を聞くことができました。2つの講演とパネルディスカッションがありましたが、2つの講演で出てきた「共感」という共通のキーワードがとても印象的でした。子ども達のありのままを受け止めること、そして子ども達にとって自分の気持ちを分かってくれる人がいること、共感することがこんなにも人に与える影響が強いのだと改めて感じました。そして子ども達とともに共感性をはぐくみ、ありのままに生きている姿を感じていきたいと思えました。また、パネルディスカッションでは様々な実体験をもとにした先生方のお話を聞き、子ども達の遊びの中には多くの学びがあるので、もっといろいろな体験をさせてあげたいと強く思いました。



子ども理解について話された酒井幸子先生

新規採用教員研修 中期Ⅱ
 と き 7月28日～30日
 ところ 県立妙義青少年自然の家

さくら幼稚園 滝澤 里奈

期待と不安が入り混じる中スタートした2泊3日の宿泊研修では、同じ現場で日々努力をしている仲間たちと共に、自身の濃い時間を過ごすことができました。班ごとの活動の中で、意見を交換し合いながら学び関係を深めることができ、ウォークラリーでは励まし、笑い合うことで団結することができました。開講式で聞いた「研修を通して、一生涯の仲間に出会えるかもしれない」という言葉を実感した瞬間が多くありました。



みんなで団結してゴールできたウォークラリー



新聞紙を使っの楽しい造形遊び

研修では実践的に学ぶ講義が多く、楽器遊びの講義では、絵本に効果音を付けることでイメージが膨らむことを実感し、ピアノ一つでも様々な表現ができることを再確認しました。また、新聞紙の性質を利用して遊ぶ活動を行い、物を自分なりに表現する経験をしたことで、子ども達が自分なりに「考えて感じて行動すること」が生活の中で重要であり、それが成長につながることを学びました。研修を通して出会った仲間や先生に刺激を受け、子ども達の思いに寄り添える保育者になれるよう、今回の研修で学んだことを生かし、日々努力していきたいと思えます。

中級講座
 と き 8月10日～11日
 ところ ホテル天坊(伊香保)

ひまわり幼稚園 小野 直子

中級研修では、保育者の同僚性や、自分が目指す保育について多くのことを学ばせて頂きました。

太田先生の講演を受け、明解なルールの設定や、新人教育の工夫など、主任・リーダーとして求められる役割について様々な課題があると改めて気付きました。向山先生の講演では、動画を見ながら日々の保育を振り返りました。中堅保育者として、子ども中心の保育を行ってきたか、保護者、上司、後輩との信頼関係は築き上げられたか、と自答することで自分が理想とする保育者像に一步近づく

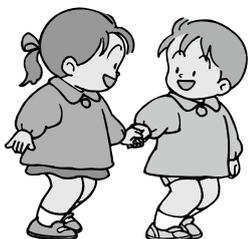


保育者の同僚性について講演された太田光洋先生



分科会にて写真を持ち寄り意見を出し合う様子

ことが出来た様に感じられました。分科会では、遊びの場面や生活の中で子どもが「学んでいる」場面の写真を持ち寄り、1日目のファシリテーターになるの講演を基にグループで話し合いました。ファシリテーターとして平等に全員の意見を聞く上で、付箋の活用的重要性を知ることが出来ました。写真から見えてくる様々な「学び」の意見に自分の保育を見直し、今後の保育の発展、そして、さらなる学びへとつなげていきたいと思えます。



上級講座

とき 8月17日(土)18日
 ところ ホテル天坊(伊香保)

(認) ひかり幼稚園 枝井貴美枝

基調講演では講師の岩立京子先生より、保育者の力量形成無くして保育の質は改善されない。たとえ1日15分でも集まって学び合う園の風土(慣習・文化)が重要だと話され、日々職員間での話合いの大切さを改めて感じました。

また、加藤篤彦先生より、人は本来自ら学ぶ存在であり、自閉症児は学びにくさはあるが、教えてもらえば身につけられる。子どもを信じ、可能性を求めて努力してほしいと話され、特別な支援が必要な子には教師が分かりやすく伝える努力と工夫が大切だと思いました。

続いて奈須正裕先生より、これからは答への無いグローバルな課題を解決する思考・判断・発想・構想・他者との協働・自己調整の能力が新たな学力として幼児期より育てる必要があると話され、日々



ユーモアを交え講演された奈須正裕先生

の保育で友達と協働してやり遂げる楽しさ、達成感を育てていく大切さを改めて学びました。
 どの講師も目からウロコで、学ぶことがたくさんあった研修会でした。

全日私幼連関東地区

教員研修茨城大会

とき 8月4日(土)5日
 ところ つくば市つくば国際会議場他

(認) 山王幼稚園 柿沼とし枝

8月4、5日に茨城のつくば国際会議場にて筑波大学名誉教授、門脇厚司先生による基調講演「子どもの社会力を育てよう」で開幕しました。「社会力」とは、人が人とつながり社会をつくる力のこと。社会力を育てるために私達大人は赤ちゃんの頃からしっかりと関わりを持ち育てると、その子は他者への関心や信頼が育つようになる。だから乳幼児期の保育が



2日目に行われたフォーラムのひとつ

大切だと話されていました。その後、マーチングバンドの演奏に会場も大変盛り上がり初日が終了しました。2日目に参加したフォーラムでは、遊びの中から学びが生まれ、遊びを充実させるには環境を整え「ゆしたい」という意欲を引き出し、保育の工夫で子どもが夢中になるスィッチを探し、繰り返し遊ぶことが学びにつながる話されていました。研修で学んだたくさんのお話を、実際の保育に生かす実践していきたいと思っています。

第6回幼児教育実践学会

とき 8月18日(土)19日
 ところ 福島県郡山市・郡山女子大学

(公益財団法人) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が主催する本学会は、本年度で第6回を迎えました。毎回、保育実践を踏まえた研究発表を中心に、熱心な保育実践者と研究者が多数集っています。

今年「子どもの『今』に寄り添い、子どもと『未来』をきずく」保育臨牀の視点を大切に、保育の質を高めよう」をテーマに、シンポジウムをはじめ、口頭発表28件、ポスター発表40件、参加者が約1000名(半数が福島県)ありました。

それらの中で私たちは、県内の3園(ちぐさ幼稚園・いそべ子ども園・清心幼稚園)の保育者らと協同して、「対話を通して変わる保育実践の創造(1)―園外研修のつくり方と『保育の質』―」と題したポスター発表を行いました。すると、多くの方からコメントや感想をいただきました。その反響に驚きつつ、私たちは、

その場に来てくださった方に本研究のプロセスや保育エピソードを紹介したり、提案したりしました。次第にそこは即興的、対話的な場となり、大変スリリングな学び合いの場が生まれていきました。日々の保育と並行して研究を進めることは大変さもありましたが、参加してとても貴重な経験ができました。今後とも継続していけたらと思います。

(編集委員/栗原)

平成27年度就職説明会

とき 7月12日
 ところ ホテルラシーネ新前橋

7月12日に行われた群私幼就職説明会に県内外から25校387名の学生が参加した。残念だったのが採用側の幼稚園が46園と少なかつた事。9時に受付が始まり、10時の開場には大勢の学生がロビーにあふれりクルート姿の学生で真っ黒に染まった。実行委員側から挨拶と説明後、待機している目当ての幼稚園のブースを求めていったが、学生の人数に対して参加園の数が少なく、各ブースには面接待ちの学生が延々と列を作っていた。希望する園が来ていなくてがっかりした。たくさんまわろうと思ったけどどこも混んでいて十分に回ることができなかった。などの意見も聞かれた。本来なら学生にもっと選択肢を与えられる様な内容であればよかったのだが、それだけが残念でならない。来年度の求職状況は厳しいことが予想される。果たして大丈夫なのか。各園には意識を持った対応が望まれる。

(実行委員長/金子 仁)

「フロムくんまちゃん」 県からのタイムリーな話題

学事法制課3年目、幼稚園担当2年目の堀口です。今年度もよろしくお願ひいたします。

さて、毎年恒例、今年度幼稚園を担当する学事法制課職員「自己紹介」及び「幼児期の思い出」を御紹介します。

課長 半田 良幸

○自己紹介

県庁職員生活も長くなりましたが、学事法制課と東京事務所が、共に2度目の勤務経験となりました。群馬県内からの視点と県外から（特に、東京から）の視点を活かして、幼児教育の振興に努めたいと思っています。

○幼児期の思い出

半世紀も前のことゆえ記憶が定かではありませんが、幼稚園のときに魚屋さんの役を演じた覚えがあります。それ以来、劇には縁がありませんでしたが、最近、研修で神様を演じる役が、とても楽しかったです。

次長 武井 俊彦

○自己紹介

学事法制課は、今回で3回目、通算9年目になります。私学のニーズ、重要性がますます高まってきていると感じています。息抜きは家ネコ2匹と遊ぶことです。

○幼児期の思い出

小さい頃、木の実を集めるのが大好きでした。幼稚園には大きなどんぐりの木があり、友達とだけ拾えるか競いました。園服のポケットはいつも木の実でパンパンに膨らんでいました。ポケットに物を詰め込む癖は今も残っているようで、時折妻に「スポンのポケットにいろいろ入れ過ぎ！」と注意されます。

係長 栗田 知明

○自己紹介

今年の4月に自治研修センターから異動して参りました私学振興係長の栗田です。学事法制課勤務は初めてですが、どうぞよろしくお願ひします。

○幼児期の思い出

私は、幼稚園でよく野球をして楽しんでいました。途中でボールが竹藪等に入ってしまったからなくなると、続けて鬼ごっこや缶蹴りを暗くなるまでやっていったことを覚えてます。無邪気だったあの頃が懐かしいです。

主任 木下 聖崇

○自己紹介

昨年10月から再び幼稚園を担当することになりました。変化の激しい時期のため、適切な助言が出来るよう頑張りたいと思います。

○幼児期の思い出

補助輪なしの自転車に乗れるようになったことが嬉しくて、乗り回していたことです。夕方まで近所の小川や畑で遊んでいたことを覚えてます。

主幹 堀口 佳奈子

○自己紹介

幼稚園の担当ということで、いつもパソコンの向こう側に、子どもたちの笑顔を見ながら仕事をするよう心掛けています。

○幼児期の思い出

幼稚園のお遊戯会の劇で、着物を着てうれしかったことを覚えています。確か、演目は森鷗外作の『山椒大夫』で、乳母の役でした（渋い！）。

（ちなみに、先日の新採研中期IIの妙義では、桃太郎のおばあさん役でした。）

以上、個性豊かなメンバー

で今年もお世話になります。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



① 幼稚園の先生になった理由は？

母親が幼稚園教諭だった影響と、年長のときの担任の先生と過ごした楽しい時間や様々な経験が今の自分にとって大きな糧になっているので、私も小さいときの楽しい思い出をたくさん作ってあげられる素敵な先生になりたいな、と思ったのが幼稚園の先生を目指した大きな理由です。

② 忘れられないエピソード

1年目ではじめて担任を持ったクラスの女の子が「先生みたいな幼稚園の先生になりたい」と思っていたの！と幼稚園の先生になるために実習に来たことです。新人なりに必死に子ども達に関わってきたことはちゃんと伝わっていたんだな、ととても嬉しくなりました。

③ 自園の一言PR（プチ自慢）

年長児がオペラに参加したり年に数回コンサートをしたりと、幼い頃から芸術に触れられる環境も自慢ですが、自然の中で思い切り体を動かして遊ぶことのできる、榛名の里山は子ども達に大人気です。手作りお弁当を持って1日たっぷり遊びます。

④ 休日の過ごし方

休日は好きなアーティスティックのライブに行き、リフレッ

ほほえみインタビュー (45)

三山幼稚園 主任 関口 真由美

シュすることが多いです。好きな音楽を通して様々な年齢や職業の人たちと出会い、話すことで皆さんの刺激をもらえます。あとは普段なかなかじっくり読めない本を読むことも好きです。

⑤ 主任として心がけていること

子ども達がどんなときでも「先生ー!!」ときてくれるような安心できる存在でありたいと思っています。保護者の方々とも信頼関係を築き一緒に悩んだり喜んだりできる保育者でいられるよう心がけています。

⑥ 今気に入っていておすすめなもの

マスキングテープです。手紙やラッピングはもちろん、クラス便りにもアクセントで使っています。色や柄の組み合わせを考えるのがとても楽しいです。



幼児教育センターの 保育相談Q&A

連載 18

群馬県総合教育センター
幼児教育センター長

都丸 千寿子

Q

最近、「質の高い幼児期の教育・保育」が求められています。その実践のためには、どのようなことをする必要がありますか。

A

国内外の幼児教育の研究結果から、「質の高い幼児期の教育・保育」の必要性が取り上げられるようになりました。様々な研究の中で、幼児の主體的な遊びが身体的な発達を促し、知的能力を伸ばすことが明らかにされています。質の高い幼児期の教育・保育を実践するため、次のようなことに留意しましょう。

○**幼児が主體的に遊び込める環境の構成をしましょう。**

発達段階、興味・関心、教師の意図等を考慮し、幼児が自ら関わり年齢相応の遊び込みができる環境を構成しましょう。特に可塑性の高い環境は重要です。

○**保育記録の作成と記録の読み取りを行います。**

環境に関わって遊ぶ幼児の様子について、メモ、文章、マップ、ビデオ、写真等様々な方法を有効に使い、記録します。記録には、幼児の姿だけではなく、教師の関わりや環境も残しておきましょう。

後々の評価や保育改善に役立ちます。○**様々な機会に保育を振り返り、次の計画や実践に生かしましょう。**

その日だけではなく、1週間、1ヶ月、

1学期、1年等様々な時期に自分の保育や幼児の育ちについて省察しましょう。

指導の過程や自分の関わりを振り返り、環境の意味を考察すること、そしてその中で幼児一人一人が、あるいは集団としてどのように育っているのかを捉えることが、よりよい教育・保育につながっていきます。

担任一人だけではなく、園内研修等を活用して多面的に振り返ることで、園全体の教育・保育の質も向上します。

◆**質の高い幼児期の教育・保育を創るため、園内の先生方と力を合わせ、知恵を出し合うと共に、いつまでも探究心を忘れない保育者でありたいですね**

● 情報 ●

公開保育・研究発表に向けて

元総社幼稚園園長 内田 達也

「公開保育って何するの？」というところからスタートしました。しかしそれが逆に良かったかもしれません。私の中ではもう一度原点に立ち戻り職員と共に今後の在り方を考える良い機会になると思いました。

しかし、何から始めればよいかも分からず研究部の先生方や公開保育を経験されている園長先生方に相談しご指導を頂きました。園にとつての課題は何か、園としてどんな子どもに育ってもらいたいかを大妻女子大学の柴崎教授のご指導のもと職員と考え議論を重ねました。

皆さまのご協力やご指導がありました。このたび公開保育を迎えることができました。本当に感謝申し上げます。

最後に公開保育当日におかれましては、各園の理事長先生や園長先生をはじめたぐさんの幼稚園関係者のご来園並びにご支援、ご指導を頂きたく職員一同心からお願いを申し上げます。

研修だより

新規採用教員研修 前期Ⅲ

とき 6月1日
ところ 県総合教育センター

すぎの子幼稚園 渡辺 真衣

前期Ⅲでは、幼稚園教諭として必要な幼児理解に基づいた実践的指導力について学ぶ事が出来ました。災害や事故等から子どもを守る為には、日々の保育で、些細なしぐさ等の変化を読み取り報告・連絡・相談する事や安全確保・避難誘導等を学び、保育者として状況を把握し、報告する事の重要性を感じました。また「出来たね」の達成感以上に、「楽しかったね」の充実感と振り返りによる共有を大切に。という城田先生の言葉に感銘を受け、気になる子どもを表面的に見るのではなく、保育者が気持ちに余裕を持つて子どもの困難さの原因を理解して関わっていききたいと感じました。

幼児期の教育の基本を理解していくとともに、これまでの保育を見つめ直し、幼児や保護者・同僚との信頼関係を築き常に子どもの最善の利益を考えながら関わる事が出来る教師になれるよう頑張っていきたいと思えます。

主任研修会

とき 6月10日
ところ 県公社総合ビル

静和第二幼稚園 工藤 沙智子



講義について先生原文上への配慮を要していた

大変重なりま
う大変重なりま
う大変重なりま
う大変重なりま

教育課程研究協議会

とき 6月18日
ところ 県総合教育センター

今年の協議主題は①『幼稚園教育要領の理念を実現するための、各幼稚園にお

ける教育課程の編成、実施、評価、改善の一連のカリキュラム・マネジメントの適切な実施について」②『特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的組織的な指導の在り方について』です。

まず群馬県教育委員会義務教育課指導主事の福島こず恵様より協議主題の解説や今後の取り組み、研究発表についての詳しい説明が行われました。また伊勢崎市立宮郷幼稚園阿久津智美教諭より実践発表、そして高崎健康福祉大学高梨珠子教授より教育課程のPDCAサイクルの工夫についての講演がありました。日々の保育で子どもたちの表情、発言、行動などの小さな変化を逃さずに丁寧に戻り返ることこそが教育課程の土台であり、子どもたちの未来に繋がるということを改めて実感しました。

参加した幼稚園は選択した協議主題について園内研修等で研究を進め、10月26日(月)に群馬県総合教育センターにて発表を行います。(編集委員/中村)

群私幼類型別連絡協議会

とき 7月15日
ところ 県勤労福祉センター

すみよし幼稚園 柳澤 慶仁

厳しい猛暑が続いた7月15日、群馬県勤労福祉センターにおいて類型別連絡協議会が開催されました。

はじめに全日私幼連・認定こども園研修会の報告があり、次のパネルディスカッションでは、新制度に移行された4園の事例報告が有り、各園の実態や問題点等も詳しくお話いただきました。

その後、各類型に分かれての意見交換

会があり、最後にグループごとの意見報告をして閉会となりました。

各類型や各地域によって様々な実態や問題があるのだと改めて感じるとともに、今後もこの連絡協議会を継続、さらに充実していただけたらと非常にありがたいと感じました。

皆様の貴重なご意見を参考にさせていただきます、しっかりと自園の今後に向き合っていきたいと思っております。ありがとうございました。

幼稚園バス乗務員安全運転講習会

とき 7月22日
ところ 赤城自動車教習所

(認)駒形幼稚園 河内 美穂

私は園バス乗務歴3年になり、今回初めて参加させていただきました。

安全運転講話を、伊勢崎署の交通課長さんからご自身の経験された事例を交えて、話をしてください学びことができました。

園バスは、毎日の送迎の中で、ほぼ同じ時間とルートを走行します。繰り返しの習慣の中では、必ず慣れが生じてきます。いちばん気を付けなくてはいけないのは、慣れの中に現れる安全の落とし穴「危険」を予知して、事故の回避が出来るように運転しなくてはなりません。親御さんからお預かりする大切な命を自分の不注意で事故など起こさないように、充分に注意して走行しようと思えました。

その後の技能講習では教習所の指導員の方が、運転席に座って一人一人を丁寧に指導して下さい、S字走行や、坂道発進などでは、初心に返ったように緊張し

ましたが、交通ルールの細かなアドバイスをすることができました。

これからも緊張感を忘れず、安全運転に心掛けて子ども達の笑顔を大切にしていきたいと思っております。

発表!!

「ハイクで俳句・川柳詠みましたー

「励まし合い 絆深める 妙義の山」

(認)のびのび幼稚園 長江 莉奈

「妙義山 太陽サンサン ヒル散々」

(認)しようび第一幼稚園 根立 奈苗

「妙義山 仲間の声に セミも鳴く」

(認)ぐんま幼稚園 横澤 早季

おくやみ

平成27年8月31日

学校法人 拓殖学園 中居幼稚園

理事長 拓殖明倫 先生(78歳)

心からご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

今年も猛暑の夏でしたが、各地で火山の噴火や台風など自然災害も相次ぎ、9月の茨城県などを襲った記録的豪雨では、多くの建物等が被害に遭い、ニュース映像では4年前の津波を思い出すような衝撃的な場面も見られ、想像を超えるものでした。

被害に遭われた地域の1日も早いライフラインの復旧と避難生活からの復興を願っております。(編集委員長/高月)

■次号173号は、平成28年

1月20日(水)に発行予定です。